ここに、がんばる人と、それをあたたかく支える人がいる

Live-rally 6

ライブラリー

＊タイトルのlive-rallyは造語です。live＝今を　rally＝やりとりするという意味と、ライブラリー（図書館）で本を閲覧するように、働く障害者の今を知っていただきたい、という願いを込めたものです。

▲我々を支えてくれているのは彼らかもしれないと話す社長夫妻

経営者と社員の関係以上に深い絆がある

障害を持つ人たちと共に働くことを誇りに、今年で創業50年を迎える「東新幸社」。社長の井上正治さんと夫人の賀代子さんが切り盛りする東京・葛飾の町工場では、5人の知的障害者を含む43人の社員が、エアガン・照明器具をはじめとするさまざまな玩具・雑貨を製造していた。

有限会社 東新幸社（あずま しん こう しゃ）

［概要］

業種:玩具・照明器具製造
創業:昭和26年
従業員数:正社員40人・パートタイマー3人

［障害者の雇用人数］

知的障害者:5人（重度障害者3人）

［障害者の雇用状況］

正社員:5名　1日8時間・週休2日制

［知的障害者の作業内容］

組立・箱詰め

知的障害者を受け入れてから発見が

昭和26年に創立した有限会社東新幸社は、金属玩具、照明器具、エアガン、玩具雑貨品の製造を手がけ、今年で50周年を迎える。製造業の多くが中国へシフトし、国内製造業の空洞化が深刻化する現在、東新幸社は日本でほとんど見られなくなったベルトコンベアラインをフル稼働させて、エアガンをはじめ人気の玩具を、今も元気に作り続けている。

「実はハローワークへ求人の募集をお願いしたら、知的障害者を受け入れてもらえないかという話になって、私たちは知的障害者に接した経験もありませんでしたし、お断りしたんです。そうしたら実習だけでもと…」25年前の出来事を振り返る賀代子さん。今、製造ラインの中心で働く柴田ゆみ子さんは、これをきっかけに東新幸社に入社することになる。

「実習では結局、知的障害者を二人受け入れたのですが、ひとりはすぐに辞めてしまいました。ゆみ子ちゃんは最初、呼びかけにも答えないし、コミュニケーションに苦労しました。でも仕事を教えたら、あっという間に覚えていき、5年たったら、本当にラインの中心として働いていましたね」

彼女と出会ってから、知的障害者を採用するようになったと語る井上社長。それからというもの、実習に来る知的障害者に、この人にはこんな能力があるんだ、と驚かされるという。

会社を支える5人の個性

もちろん、実際に採用して定着に至る人は限られる。現在、日々のいろいろなアクシデントを乗り越え、東新幸社を支えている知的障害者の人たちは5名。その横顔をここに紹介しよう。

柴田ゆみ子さん。彼女がいなくなったら、工場を畳むと井上社長に言わせてしまう東新幸社の中心人物。「入社当時何も反応を示さなかった柴田さんも、すでに今年で勤続25年。葛飾区から優良従業員として表彰されました。

関根恵子さんも入社して24年を迎える。実習で一度は不採用としたが、ご両親の強い希望と知的障害者の可能性にかけていた二人の直感で採用した。今も変わらずコツコツと仕事をひたむきにこなしている。

実習の途中、工場をシャボン玉だらけにしてしまい、賀代子さんをあきれさせた竹内進さんは入社して19年。製造個数のカウントなら、彼に訊けば間違いないと、社長からも信頼されている。「社長と奥さんは、いい人です。周りの人もいい人です。休みの日は、ほとんどサッカーをしています。ポジションはフォワードです」

入社4年目の横山かおるさんは、最近ヘルパーの資格を取って、ボランティアとして活躍している。資格を取ったことが自信となり、仕事の励みなっているようだと井上社長も眼を細める。

三橋宏信さんは今年で入社3年目。いつも竹内さんとサッカーを楽しんでいる。「僕はエアガンの組み立てと照明器具を作っています。仕事では、とにかく間違えないよう気をつけています。仕事は本当に楽しいですよ」

柴田ゆみ子さん▶

関根恵子さん▶

◀三橋宏信さん

◀竹内進さん

◀ 仕事仲間と共に

ここに、がんばる人と、それをあたたかく支える人がいる

Live-rally ⑥ ライブラリー

障害者雇用の新たな可能性

「言葉で何かを表現するような能力は、障害がある彼らには乏しいかもしれませんが、何かを察知したり、気配りしたりする力は、健常者以上に豊かだと思います」そう語る賀代子さんは、ストレスで落ち込んだりしていると、彼らにさりげなく励まされるという。経営者と社員以上の関係を築いていると井上社長も笑う。井上夫妻とここで働く知的障害者は、足りない物をお互いが補える関係という方が正しいのかもしれない。

「実習生として初めて会社にきたときは、仕事などできないと思える知的障害者が、現場の中でどんどん成長していく姿をみるのは、本当にうれしいものです。2、3年もすると、健常者に負けない能力を発揮する人もいる。そんな人を育てることは喜びですね」

本当の意味で「支え合う」という東新幸社の障害者雇用が、新たな可能性を生み出している。

Live-rally POINT 雇用に当たっての アドバイスを聞きました

有限会社東新幸社代表取締役:井上正治さん

当社で働く5人の知的障害者は、それぞれが製造の組み立てラインに携わっています。一人ひとりが大切なので、誰か一人でもいなくなると、会社は本当に困ります。彼らに感心するのは、本当に休まずに出社し、きちんと自分たちのノルマをこなすことです。確かに育成する点では、難しい側面もありますが、一度覚えれば、本当に能力が伸び貴重な戦力になります。これからも私たちは、仕事を一緒にこなすパートナーとして、知的障害者と歩んでいきたいと思います。

Live-rally POINT 雇用に当たっての 留意点を聞きました

有限会社東新幸社専務取締役:井上賀代子さん

知的障害者を採用する場合は、私たちだけで決定することはありません。私はあくまでも採用の窓口。1、2週間の実習期間の中で社員が、この人は必要かどうかを判断します。みんなが仲間に加えても良ければ、採用することになります。実習の間に、どうしても課題があるということになれば、やはり採用は見送りますし、職場のみんなが、この子は仕事が遅いけど、仲間にしたいということであれば採用します。現場の意見を尊重することで、仕事への熱意と障害者への理解や共感が、生まれてくるのです。